

美祢市生涯活躍のまち構想（骨子）

～美祢市にずっと住みたくなる「まちの基盤づくり」～
共につくる地球公園暮らし

平成 28 年 月 美祢市

目次

1. 「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）」構想とは	1
（1）「生涯活躍のまち」構想が目指すもの	
（2）高齢者の希望の実現	
（3）地方への人の流れの推進	
（4）東京圏の高齢化問題への対応	
（5）基本コンセプト	
2. 「生涯活躍のまち」構想がもたらす多面的なメリット	4
3. 「生涯活躍のまち」構想に必要な機能	5
4. 美祢市の地域特性	6
（1）地理的な特徴	
（2）社会的な特徴	
（3）人口動向	
（4）高齢者動向	
（5）「美祢市生涯活躍のまち構想」に関する地域資源	
5. 「美祢市生涯活躍のまち構想」の方向性	11
（1）ビジョン	
（2）コンセプト	
（3）方針	
（4）タウン型「生涯活躍のまち」のイメージ	
（5）今後高めていく機能	

1. 「生涯活躍のまち（日本版CCRC※）」構想とは

（日本版CCRC構想有識者会議『「生涯活躍のまち」構想（最終報告）』より）

（1）「生涯活躍のまち」構想が目指すもの

「生涯活躍のまち」構想は、「東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すものです。

国が示す「生涯活躍のまち」構想の意義としては、①高齢者の希望の実現、②地方への人の流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の3つの点があげられます。

（※ CCRC = 「Continuing Care Retirement Community」の略）

（2）高齢者の希望の実現

東京都在住者のうち地方へ移住する予定又は移住を検討したいと考えている人は、50代では男性50.8%、女性34.2%、60代では男性36.7%、女性28.3%にのぼっています。こうした中高年齢者においては、高齢期を「第二の人生」と位置づけ、それぞれの人生のライフステージに応じた新たな暮らし方や住み方を求めて都会から地方へ移住し、これまでと同様、あるいは、これまで以上に健康でアクティブな生活を送りたいという希望が強くなっています。また、地方は東京圏に比べて、日常生活コストが大幅に低いという点で住みやすい環境にあります。

「生涯活躍のまち」構想は、こうした大都市の高齢者の希望を実現し、新しい生活をつくり、健康寿命を延ばし、人生を充実したものにするための機会提供を図る取り組みとして、大きな意義を有しています。

なお、「生涯活躍のまち」構想は、あくまでも住み替えの意向のある高齢者の希望実現を図る選択肢の一つとして推進するものであり、高齢者の意向に反し移住を進めるものではありません。

（3）地方への人の流れの推進

近年、東京圏への人口集中が進む中で、地方創生の観点から、地方への新しい人の流れをつくることが重要な課題となっており、高齢者の地方移住はそうした動きの一つとして期待されています。

「生涯活躍のまち」構想は、移住した高齢者が地方で積極的に就労等の社会活動に参画することにより、地方の活性化にも資することを目指しています。地方には長年にわたって医療介護サービスを整備してきた地域が多く存在しています。こうした地域では、人口減少が進む中で、高齢者の移住により医療介護サービスの活用や雇用の維持が図られている点で意義が大きいと言えます。

また、東京圏からの移住にとどまらず、地方の高齢者についても、効果的・効率的な医療介護サービスの確保等の観点から、サービスへのアクセスが比較的便利な中心部へ住み替えを行う「まちなか居住」や集住化の推進が重要となっています。こうした地方の住み替えにおいても、「生涯活躍のまち」構想の考え方は有用であると言えます。加えて、構想の推進に当たっては、増加傾向にある空き家や空き公共施設などの地域資源を活用することにより、地域の課題解決にも資することを目指しています。

(4) 東京圏の高齢化問題への対応

一方、東京圏は今後急速に高齢化が進むこととなります。特に75歳以上の後期高齢者は2025年までの10年間で約175万人増えることが見込まれています。その結果、医療介護ニーズが急増し、これに対応した医療介護サービスの確保が大きな課題となってきます。東京圏においては、医療介護人材の不足が深刻化するおそれがあり、このまま推移すれば、地方から東京圏への人口流出に拍車がかかる可能性が高くなります。

こうした状況下で、「生涯活躍のまち」構想は、地方移住を希望する東京圏の高齢者に対して、地方で必要な医療介護サービスを利用するという選択肢を提供する点で、東京圏の高齢化問題への対応策として意義があると考えられます。

(5) 基本コンセプト

(従来の高齢者施設との基本的な違い)

従来の高齢者施設等		「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」構想
主として要介護状態になってから選択	居住の契機	健康時から選択
高齢者はサービスの受け手	高齢者の生活	仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加(支え手としての役割)
住宅内で完結し、地域との交流が少ない	地域との関係	地域に溶け込んで、多世代と協働

(地域包括ケアシステム*との連携)

国は、高齢者が重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最終段階まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の実現を目指しています。

「生涯活躍のまち」構想は、「地域包括ケアシステム」との連携により、①「高齢者の希望に応える」、②「移り住んだ高齢者が、地域社会に溶け込むようなまちづくりを目指す」、③「医療介護が必要な時に、地域で継続的なケアが受けられることを目指す」ことの相乗効果を高めることが望ましいとしています。

※「地域包括ケアシステム」とは

地域住民に対し、保健サービス(健康づくり)、医療サービス及び在宅ケア、リハビリテーション等の介護を含む福祉サービスを、関係者が連携、協力して、地域住民のニーズに応じて一体的、体系的に提供する仕組み。ソフト(事業)面では、その地域にある保健・医療・介護・福祉の関係者が連携してサービスを提供するものであり、ハード面では、そのために必要な施設が整備され、地域の保健・医療・介護・福祉の資源が連携、統合されて運営されていること。

(居住希望者への機会の提供)

居住希望者に対し、今後生活することとなるコミュニティに関する意見交換や検討の場に積極的に参画する機会を提供したり、実際にその地域で短期的に生活する「お試し居住」などの機会の提供を通じて、居住意思を丁寧に確認するプロセスが重要となります。

(7つの基本コンセプト)

- ① 東京圏をはじめ地域の高齢者の希望に応じた地方や「まちなか」などへの移住支援
- ② 「健康でアクティブな生活」の実現
- ③ 地域社会(多世代)との協働
- ④ 「継続的なケア」の確保
- ⑤ IT活用などによる効率的なサービス提供
- ⑥ 入居者の参画・情報公開等による透明性の高い事業運営
- ⑦ 構想実現に向けた多様な支援

2. 「生涯活躍のまち」構想がもたらす多面的なメリット

「生涯活躍のまち」構想実現により以下のような恩恵や効果をもたらすことが想定されます。

分野	生涯活躍のまち構想によるメリット
経済面	雇用創出、消費拡大、税収増加
健康面	健康寿命延伸、将来の医療・介護費用の抑制
社会活動面	社会参加向上、多世代共生
まちづくり面	ストック活用のまちづくり
エネルギー面	省エネルギー化によるエネルギーコスト低減

（経済面）

首都圏や近隣他県などから高齢者が移住してくることで、それに関連する産業への雇用創出が期待されます。また、人口の増加は消費拡大につながり、企業業績が向上することで税収増加となり公共施設等の充実が図られるなど生活環境が改善されます。

（健康面）

高齢者が健康な時から健康増進、医療と介護の心配のない環境を提供し、生きがいや健康維持につながる活動を支援することで健康寿命が延伸され、将来の医療・介護費用の抑制につながります。

（社会活動面）

高齢者や移住者が、地域の仕事や社会活動、生涯学習等に積極的に参加することで、地域社会に溶け込み、地元住民や子供・若者などの多世代との交流・協働が図られます。

（まちづくり面）

必要に応じて整備される施設等は、新築だけでなく、中古住宅や公共施設等の既存ストックを利活用することで、環境負担が軽減され、経済的優位性が図られるとともに、空き家対策につながります。

また、「生涯活躍のまち」構想により、機能性の高い施設の整備などにより、地域が活性化され、持続可能な暮らしやすいまちの実現につながります。

（エネルギー面）

機能を集約することで移動にかかるコスト低減につながるとともに、住居や施設等を整備する際には、省エネルギー化に努めることでエネルギーコスト削減が図られます。

3. 「生涯活躍のまち」構想に必要な機能

「生涯活躍のまち」は従来の高齢者施設とは異なり、高齢者が健康な時から入居し、できる限り健康寿命を長くすることで、地域の仕事や社会活動、生涯学習に積極的に参加する「主体的な存在」となります。また、高齢者が地域社会に溶け込み、地元住民や子供・若者などの多世代との交流・協働することで生きがいを感じながら生活することができます。

高齢者のよりよい環境を実現するためには、「住まい」、「医療」、「介護」、「健康増進」、「教育」を総合的に提供し、多世代の新たな住まい、人生のあり方という観点から、希望に満ちた暮らしができる環境、歳を重ねるごとにワクワクできる環境、可能な限り主体的に人生をおくれる環境づくりが求められます。

こうした環境が高齢者のよりよい生活のみならず、地域社会に様々なプラスの効果をもたらすような仕組みになり得るよう、多様な主体と連携し、地域づくりの一環として継続的に取り組むことが「生涯活躍のまち」構想の重要なポイントとなります。

《必要な機能および環境》

(機能)

- ◆ 住まい
- ◆ 仕事
- ◆ 医療
- ◆ 介護
- ◆ 健康増進
- ◆ 教育
- ◆ コミュニティ
- ◆ 社会参加
- ◆ 多世代共生

(環境)

- ◆ 希望に満ちた暮らしができる環境
- ◆ 歳を重ねるごとにワクワクできる環境
- ◆ 可能な限り主体的に人生を送れる環境

4. 美祢市の地域特性

(1) 地理的な特徴

- ① 美祢市は平成 20 年 3 月 21 日に美祢市・美東町・秋芳町の合併により誕生し総面積 472.64 平方キロメートルを有しています。
- ② 広域交通体系は、J R 美祢線が南北を縦断しているほか、中国縦貫自動車道、国道 435 号、同 316 号、同 490 号並びに主要地方道等の広域道路網等で構成されています。

飛行機		新幹線	
■ 東京(羽田)～山口宇部	約90分	■ 東京～新山口	約4時間20分
⇒山口宇部空港から車で	約60分	⇒新山口から車で (高速道路利用)	約40分
車		■ 新大阪～新山口	約1時間50分
■ 山口市より(高速道路利用区間 小郡IC-美祢IC)	約40分	■ 広島～新山口	約35分
■ 下関市より(高速道路利用区間 下関IC-美祢IC)	約45分	■ 博多～厚狭	約40分
■ 萩市より(高速道路利用区間 十文字IC-美祢IC)	約60分	⇒厚狭から車で (一般道利用)	約20分
※上記は各市役所から美祢市役所までの所要時間			

- ③ 日本最大級のカルスト台地『秋吉台』や国の特別天然記念物である大鍾乳洞『秋芳洞』などがあり、平成 27 年 9 月に Mine 秋吉台ジオパークが日本ジオパークに認定され、自然と文化の交流拠点都市となっています。
- ④ 中山間地域にあり年間平均気温は 15.0℃と、年間を通じて快適に四季を感じることができます。
- ⑤ 山口県は全国でも地震が少なく、その中でも美祢市は、約 90 年間震度 3 を超える地震は発生していません。



(2) 社会的な特徴^{※1}

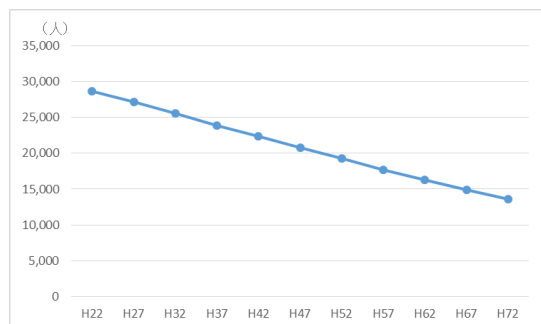
- ① 美祢市は、中国地方の類似都市並びに山口県内の他市と比較して、完全失業率が4.7%（山口県平均5.9%、山口県内13市の中で最上位）と低く、美祢市から他の市町に通勤する者より、市外から美祢市へ通勤する者が多いことから、比較的雇用のある地域と言えます。
- ② 1 教員当りの小学校児童数と中学校生徒数はいずれも6.6人（山口県平均小学校14.2人、中学校12.0人、山口県内13市の中でいずれも最上位）と少なく、行き届いた教育が行われやすい教育環境にあると言えます。
- ③ 市立病院が2施設あり、両病院間をシャトルバスが運行しています。介護福祉分野においても、山口県内の他市と比較して介護老人福祉施設数（65歳以上人口1,000人あたり）が0.42カ所（山口県平均0.21カ所、山口県内13市の中で最上位）と多く、ケア体制の充実が図られています。
- ④ 地域住民の交流の場として、人口1,000人あたりの公民館数が0.45カ所（山口県平均0.16カ所、山口県内13市の中で最上位）と多いのも特徴です。
- ⑤ 農地取得について、10アールから購入でき、初めて農業を行う場合でも、取り組みやすい環境といえます。

(3) 人口動向

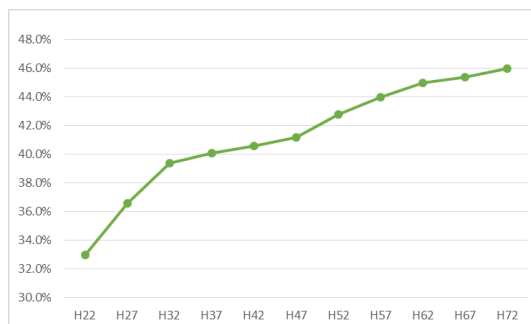
平成27年の時点で約2万6千人の人口は、25年後の平成52年には2万人を下回り、平成72年には約5割にまで減少することが予想されます。

一方で老年人口（65歳以上）は平成32年まで上昇し、その後、減少に転じることが予想されますが、高齢化率は上昇を続け、平成72年には46%に達することが想定されます。

[将来人口推計]



[高齢化率の推移]



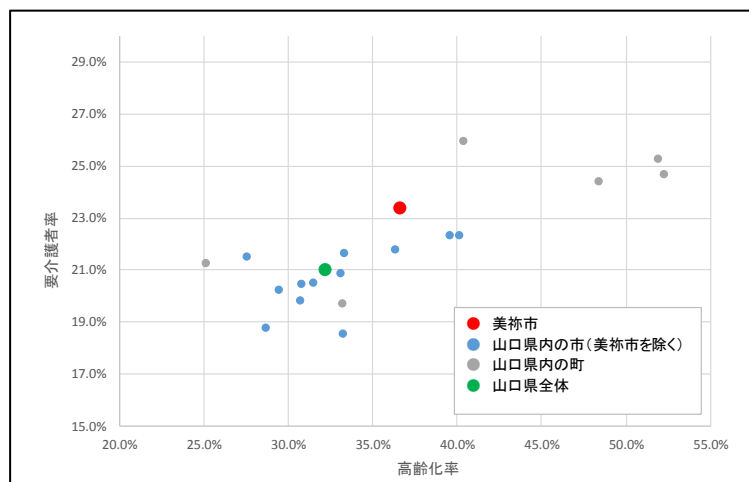
出典) 平成22年は、総務省「国勢調査」(平成22年10月1日時点)

平成27年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の推計準拠(国のワークシートによる推計結果)

(4) 高齢者動向^{※2}

美祢市は山口県の中でも高齢者(65歳以上)の割合が36.6%(山口県平均32.2%)、また高齢者に占める要介護者の割合も23.4%(山口県平均21.0%)と、ともに山口県の平均を上回っています。

[高齢化率と要介護者率]



(5) 「美祢市生涯活躍のまち構想」に関する地域資源

472.64平方キロメートルの市域を有する美祢市は、合併前の旧1市2町の本庁舎が置かれていた大嶺町東分地域、美東町大田地域、秋芳町秋吉地域に行政施設や比較的規模の大きな店舗などの日常生活に必要な機能・サービスが集まっており、旧美祢市地域、旧美東町地域、旧秋芳町地域における拠点エリアとして、また、それぞれの地域内ネットワークの結節点となっています。

(交通基盤)

美祢市内には、主要幹線道路として、東西に国道435号が、また、南北に同316号、同490号が通っています。市の南部には中国縦貫自動車道が通っており、3つのインターチェンジが配置され、美祢東JCTからは地域高規格道路小郡萩道路が萩市に向かって整備されており、アクセスが非常に良い都市です。

一方、鉄道は、JR厚狭駅からJR長門市駅間を結ぶJR美祢線が市内を縦断しており、山陽側と山陰側を結ぶ重要な公共交通機関となっています。

バスについては、近隣市を結ぶ路線バスのほかに、遠方の都市を結ぶ高速バスや市内を回るコミュニティバスが運行しています。集落の中心からバス停までが遠く、バスの利用が困難な地域においては、ミニバスを運行し、市民の移動手段の確保に努めています。

- 交通インフラ (高速道路：美祢IC・美祢西IC・美祢東JCT、JR美祢線)
- ミニバス・コミュニティバス など

（生活支援機能）

美祢市は、2つの市立病院（美祢市立病院と美祢市立美東病院）をはじめとする17の病院・診療所が、地域の一次医療・二次医療を担っています。また、隣接する宇部市には三次医療を担う山口大学医学部附属病院があり、車両による搬送・移動のほかに、救急救命の場合は山口県のドクターヘリによる搬送等により、医療の広域連携を図っています。

美祢市では、介護老人保健施設グリーンヒル美祢や養護老人ホーム共楽荘を有し、2カ所の地域包括支援センターを通して高齢者が住み慣れた地域で安心して生活続けることができるよう、さまざまな相談に応じ、地域での生活を包括的に支援しています。民間事業者においても介護老人福祉施設をはじめとして、多くの施設を運営しています。

- 病院・診療所
- 老人保健施設
- 訪問看護訪問ステーション
- 介護・福祉施設
- 地域包括支援センター
- 保健センター など

（情報ネットワーク）

中山間地域にある美祢市のテレビ放送の受信環境は良いと言えないことから、ケーブルテレビ「美祢市有線テレビ放送」を市が整備しており、山口ケーブルビジョン（山口市）の加入率を含めた美祢市全体のケーブルテレビ加入率は88%を超えている状況です。

このため多くの市民は、ケーブルテレビを通じて、市からの行政情報をはじめ、美祢市議会の会議の様子や独自放送による地域行事の番組放送を視聴でき、地域の活性化と情報共有化に大きな役割を果たしています。

- ケーブルテレビ など

（産業、事業者）

平成22年の国勢調査によれば、市内の産業別就業者数は多い順に、製造業、卸売業・小売業、農業、医療・福祉となっています。また、美祢市の特徴的な産業である石灰石採掘企業は大規模な施設を有している事業者が多くなっています。

このほかにも、金融機関や郵便局などが市民の生活をサポートしている状況です。

- 市内企業・事業所
- 金融機関・郵便局 など

(交流拠点)

美祢市には2つの高校があり、市内の高校進学を受入れ先となっています。

また、平成27年4月より山口県立宇部総合支援学校美祢分教室が旧桃木小学校校舎に置かれ、障害の有無に関わらず市内で学ぶことのできる共生の環境づくりが整いました。

更に、美祢市全域を範囲とする *Mine* 秋吉台ジオパークは、平成27年9月に日本ジオパークに認定され、生活する市民にとって大きな誇りと希望となっています。

- 教育機関（市内の小中学校や高校など）
- 公民館
- *Mine*秋吉台ジオパーク関連施設
- 美祢社会復帰促進センター など

(関係者)

美祢市は、少子高齢化の進む都市ではありますが、山口県や包括連携・協力協定を締結している国立大学法人山口大学をはじめとする教育機関や関係団体との連携に努めています。

- 山口県
- 大学等教育機関
- 医療機関
- 社会福祉法人（社会福祉協議会等を含む）
- NPO法人
- シルバー人材センター
- コミュニティ団体（文化、観光、スポーツ、市民活動） など

※1) 総務省「統計でみる市町村の姿 2014」より

※2) 国立社会保障・人口問題研究所 市区町村別将来推計人口（平成25年3月1日推計時点）より

5. 「美祢市生涯活躍のまち構想」の方向性

(1) ビジョン

美祢市では、平成27年10月に、人口減少問題に対応し、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくための目標や施策をまとめた「美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。また、総合戦略には柱となる4つの重要戦略を掲げており、「生涯活躍のまち」はその1つとして取り組むことにしています。

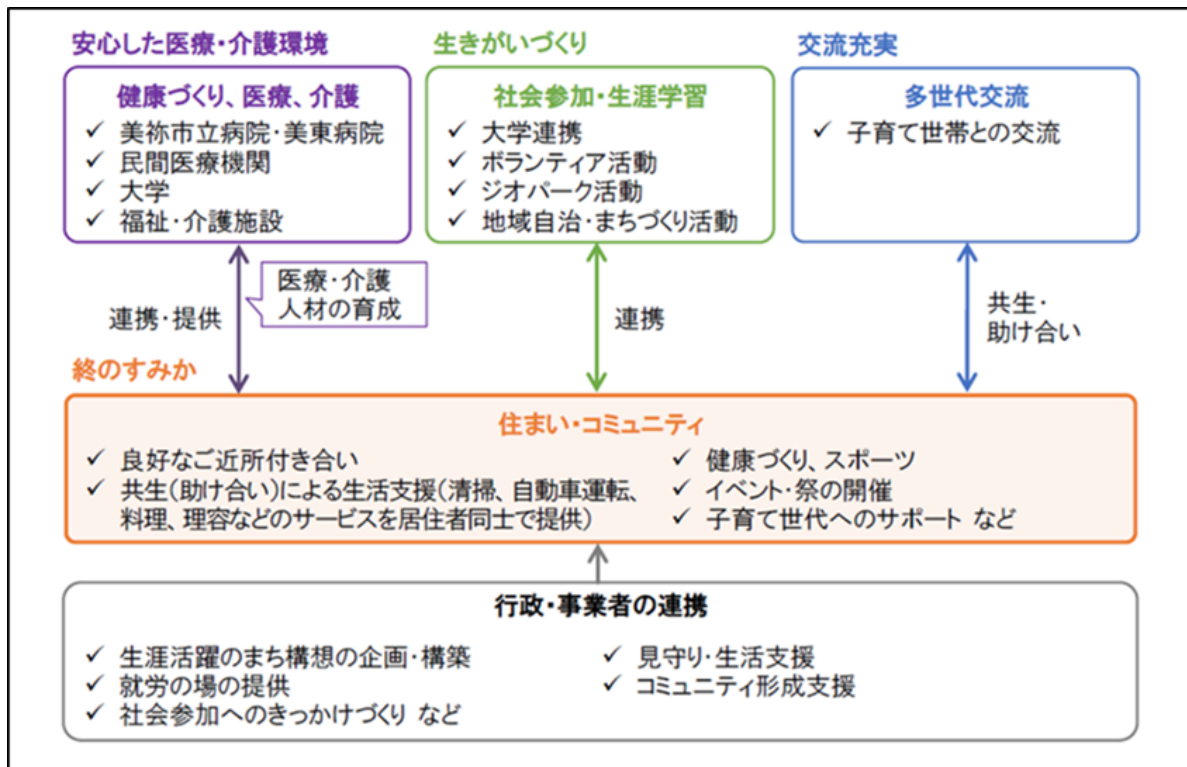
この構想は、美祢市の将来を担う重要な施策であり、地域住民の定住促進と他の地域からの移住者の受け入れによる人口の維持・拡大を最大の目的としています。

この目的達成のため、次の2つのビジョンを掲げます。

- 年齢や性別に関わらず、共に支え合い健康でアクティブな生活を送ることができるまちづくり
- 安心して必要な医療・介護を受けることができる環境の整備や、生きがいを持って暮らすことができる仕組みをつくることによる、美祢市で暮らすことの幸福度の向上

[美祢市での生涯活躍のまち構想のイメージ]

(「美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」より)



(2) コンセプト

「美祢市生涯活躍のまち構想」では、次に掲げる6つのコンセプトを柱に取り組んでいきます。

- ① 住民が『共生』するまちづくり
- ② 継続的なケアを基にした『つながり』ある社会の構築
- ③ 就労及び社会貢献活動を通じた『生きがい』の探求
- ④ ITを活用した『安全・安心』なサービスの提供
- ⑤ 地球公園という名の大地で生活する『誇り』の醸成
- ⑥ 参画と交流による『幸福感』の向上

(6つのコンセプトの内容)

① 住民が『共生』するまちづくり

少子高齢化が進む美祢市では、今後、市民の支え合いが益々重要となります。老若男女、障害の有無に関わらず交流や共助を推進することは、それぞれに活躍の場を生み出すとともに、一人一人が必要とされ、能力を発揮することのできる環境作りにつながります。また、これは「ノーマライゼーション※」や、「ソーシャル・インクルージョン※」の理念にも通じ、多様な人が活躍できる社会の創造につながるものです。

このことから美祢市では、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、共に支え合うまちづくりを目指します。

※「ノーマライゼーション」

障害者や高齢者など社会的に不利を受けやすい人々が、社会の中で他の人々と同じように生活し、活動することが社会の本来あるべき姿であるという考え方。また、弱者がスムーズに社会参加できるような環境の成立を目指す活動、運動のこと。

※「ソーシャル・インクルージョン」

「社会的包容力」「社会的包摂」などと訳される。社会的弱者を社会から排除するのではなく、誰もが社会の一員として包括され、社会の中で共に助け合っていこうという考え方。

② 継続的なケアを基にした『つながり』ある社会の構築

各地域で自立した生活を送り、その後要支援・要介護となった時には、地域全体で見守り・支え合うことのできる地域包括ケアシステム《地域とのつながり》と、市内の東西に位置する2つの市立病院をはじめとした医療・介護施設との連携《医療と介護のつながり》により、安心して継続的なケアが受けられる社会を構築します。

③ 就労及び社会貢献活動を通じた『生きがい』の探求

秋吉台や秋芳洞など、美祢市には豊富な地域資源があります。その豊かな自然を活かした観光と農業は、美祢市の大きな産業であり、そこには一人一人が活躍できる場があります。就業・起業の支援や観光ボランティアをはじめとした社会貢献活動の機会提供、農林産物の高付加価値化やブランド化、六次産業化を図る上で必要な人材育成など、一人一人が役割を担い、生きがいを持って暮らせる場を創造します。

④ ITを活用した『安全・安心』なサービスの提供

医療・介護サービスにおける人材不足に対応するため、ITの活用や地域住民の積極的な参加を実現することで、安否確認、買物支援、健康管理など、ニーズに応じた安全・安心で質の高いサービスの提供を図ります。

⑤ 地球公園という名の大地で生活する『誇り』の醸成

秋吉台の地下水系は、国際的に重要な湿地であるラムサール条約湿地に登録されており、また、美祢市全域がMine秋吉台ジオパークに認定され、美祢市は地球公園といえます。市民一人一人が、この壮大な大地に暮らすことに誇りを持ち、自身に満ち溢れた生活が送れるような地域社会を実現します。

⑥ 参画と交流による『幸福感』の向上

地球公園である市内には、秋吉台をはじめとするウォーキングのコースや、生涯スポーツとして人気のあるグラウンドゴルフのコースなど、アクティブな生活を送ることのできる場所が多くあります。更に、美祢市内13カ所の公民館においては、地域性を持った公民館活動が積極的に行われており、美祢市内に分散している空き家や空き公共施設などを、多世代が交流するこのできる施設「地域交流拠点」として活用することで定住促進につなげます。

このことにより、世代を超えた積極的な交流による「ソーシャル・キャピタル※」を形成し、美祢市で暮らすことの幸福感を高めていきます。

※「ソーシャル・キャピタル」

社会や地域における人々の信頼関係や協調のこと。人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性が高まるという概念で、個人レベルでは「人とのつながり」、地域レベルでは「地域の力」と表現できるようなものを言う。

(3) 方針

美祢市は、合併前の旧1市2町の本庁舎が置かれていた大嶺町東分地域、美東町大田地域、秋芳町秋吉地域に行政施設や日常生活に必要な機能・サービスが集まっており、主な特徴として地域住民の交流の場となる公民館数が人口1,000人あたり0.45カ所と多いことが挙げられます。また、市内には分譲地や空き家、空き公共施設があり、これらは「生涯活躍のまち」における「地域交流拠点」として、既存の地域住民や移住者が多世代と交流し、健康教室やボランティアなど老若男女の生きがいの創出の場としての活用が期待できます。

更に2つの市立病院を有していることは、市民の安全・安心の確保につながっており、地域包括ケアシステムとの連携を図ることにより、コミュニティの持続性が高まるなどの効果も期待できます。

このことから、居住環境の提供、多世代の交流、ボランティアなどの生きがいを通じ、健康な時から人生の最終段階まで安心して自立した生活を送ることができる市全域を対象とした、タウン型^{*}の「生涯活躍のまち」を目指します。

※「タウン型」

「生涯活躍のまち」構想における立地・居住環境における地域的広がり種類の一つ。主に地域のソフト・ハードの資源を一体的・総合的に活用するタウン型と、主として一定の地域を集中的に整備するエリア型の2種類が示されている。

ビジョン

共に支え合い健康でアクティブな生活を送ることができるまちづくり

必要な医療・介護を受けることができる環境の整備や、生きがいを持って暮らすことができる仕組みづくり

コンセプト

『共生』

『つながり』

『生きがい』

『安全・安心』

『誇り』

『幸福感』

方針

市全域を対象とするタウン型の「生涯活躍のまち」を目指す

(4) タウン型「生涯活躍のまち」のイメージ

「地域包括ケアシステム」を構築し、美祢市全体をカバーするタウン型の「生涯活躍のまち」を実現することで、交通弱者でもある高齢者などを継続的に地域で見守っていくための『地域ケア力』の向上を図ります。

また、豊かな自然や観光資源を有する地域特性を活かし、健康づくりや就労、社会生活、生涯学習など、市民が住み慣れた場所で、安心して自分らしい生活ができる環境を整えていきます。

新たな地域の担い手となり得る移住者においても、この枠組みの中に加わり、地域住民との交流を深め、共に生きがいを持ち、心豊かな生活の構築を図っていきます。

[タウン型「生涯活躍のまち」のイメージ図]



(5) 今後高めていく機能

a) 自立した生活が続けられる居住環境の形成

高齢者などが多世代と交流・協働ができる住居環境やバリアフリー空間の整備など、既存ストックの活用も含め、多様な居住環境の形成を図ります。

b) シニアの健康維持・増進

アクティブシニアの活動による地域活力の向上や健康に関するビッグデータの蓄積による健康づくりによりシニアの健康維持・増進を図ります。

c) 活動の場づくり

知的好奇心を満たす場、自身のスキルを活かせる場などによる生きがい創出やボランティア活動等を通じた地域づくりへの貢献などの活動の場を提供します。

d) 交流の促進

日常生活の中での地元の子どもや学生との交流、生涯学習を通じた大学生や留学生との交流、育児相談など子育て世代との交流など、高齢者や移住者が年齢や性別に関わらず地域内で交流できるコミュニティづくりを推進します。

e) 人材育成・確保

高齢者が過去の経験を活かし、営業力やコミュニケーション能力などビジネス人材の育成や建設、製造、工芸などの技能を地域の若者へ伝承する場を提供するとともに、次世代を担う若者の育成と確保に努めます。

f) 新産業創出・雇用の創造

技術やノウハウを持った移住者の受入により、既存産業の振興や新たな産業の創出、ITを活用した新たな医療介護サービスの提供などにつなげるとともに新たな雇用に創造します。